

鉄道員（ぽっぽや）

観賞日 2025年1月27日 上映時間 112分

【概要】

制作 1999年
監督 降旗康男
脚本 岩間芳樹、降旗康男
原作 浅田次郎『鉄道員』
音楽 国吉良一
撮影 木村大作
出演 高倉健（佐藤乙松）、大竹しのぶ（佐藤静枝）、広末涼子（佐藤雪子）
小林稔侍（杉浦仙次）、吉岡秀隆（杉浦秀男）、奈良岡朋子（加藤ムネ）



【あらすじ】

北海道の赤字ローカル線幌舞線。その終点、幌舞駅の駅長、佐藤乙松はもうすぐ定年を迎える。正月3日、近く的美寄駅長の杉浦仙次が訪ねて来る。仙次は若い頃からの無二の親友で。家族ぐるみの付き合いがある。乙松は仕事一筋で生粋のぽっぽや。2年前に妻の静枝をなくし、駅舎にある宿舎で一人暮らし。乙松には、静枝と結婚して17年目にやっと授かった娘の雪子を生後3か月で亡くし死に目にも立ち会えなかったという後悔がある。駅舎に人形を持った少女が現れ、次に忘れた人形を取りに二人目の少女がやって来る。そして最後に、セーラー服を着た少女が登場する。その3人の少女が亡くなった雪子の別の姿であることに気づいた乙松は乙松に対する雪子の気持ちを知り、永年苦しんできた悩みから解放され静かに眠りにつく。

浅田次郎の直木賞受賞作の映画化。監督・降旗、撮影・木村、主演・高倉の黄金トリオの復活。日本アカデミー賞主要部門を独占した感動作。

【解説】

■ポイント

●浅田次郎（1951年～）

1951年東京生まれ。裕福な家庭に育ったが9歳の時に稼業が倒産、両親も離婚。高校卒業後受験に失敗。三島由紀夫の影響を受け自衛隊に入隊。除隊後は多様な職業を経験。1995年「地下鉄（メトロ）に乗って」で吉川英治文学新人賞を受賞。翌年、代表作となる「蒼穹の昴」を発表するが惜しくも直木賞受賞を逃す。1997年、本作で念願の直木賞を受賞。その後も多様なジャンルの作品を発表し各賞を受賞、映像化された作品も多い。2011年、日本ペンクラブ会長に就任。2015年、紫綬褒章受章。



●受賞（2000年第23回日本アカデミー賞）

8部門にノミネートされ下記6部門で受賞

作品賞、監督賞、脚本賞、主演男優賞、主演女優賞、助演男優賞（小林稔侍）

■見どころ

●制服の似合う、高倉健による高倉健のための作品

●滅びのノスタルジー

赤字ローカル線の廃線、炭鉱の閉山、亡くした幼子……。

●乙松と仙次の人生

乙松：妻と幼い一人娘を失う。護ってきた駅は廃駅。それでも駅に立ち続ける。

仙次：息子は本社のエリート。孫もいる。再就職も決定。それでも乙松を敬愛する。

●少しほかし気味の木村大作の映像